

IF関数 使い方マスターガイド



※当ガイドに従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。

IF関数の基本をおさらい

IF関数の基本をおさらい

IF関数は、「もし〇〇だったらA、そうでなければB」という条件分岐を作る関数です。まずは、3つの引数（ひきすう）の役割をしっかりおさらいしましょう。

=IF(論理式, 真の場合, 偽の場合)

引数	内容	具体例
① 論理式	条件式。「B2セルが80以上」など、Yes (=TRUE) / No (=FALSE)で答えられる式を立てます。	B2>=80
② 値が真の場合	論理式の結果がTRUE（真）の時に表示したい値。	"合格"
③ 値が偽の場合	論理式の結果がNO（偽）の時に表示したい値。	"不合格"

複数条件は「AND」と「OR」を使いこなす

複数条件は「AND」と「OR」を使いこなす

「国語が80点以上、かつ、数学も80点以上」のような複数条件は、AND関数やOR関数を論理式の中に組み込んで使います。

■AND関数：すべての条件を満たす場合

`=IF(AND(条件1, 条件2), 真の場合, 偽の場合)`

例：C2セル（国語）とD2セル（数学）が両方80点以上なら「合格」

`=IF(AND(C2>=80, D2>=80), "合格", "不合格")`

■OR関数：いずれかの条件を満たす場合

`=IF(OR(条件1, 条件2), 真の場合, 偽の場合)`

例：C2セルが「土」または「日」なら「休日」

`=IF(OR(C2="土", C2="日"), "休日", "平日")`

3つ以上の分岐には「IFS関数」を使用する

3つ以上の分岐には「IFS関数」を使用する

「優・良・可」や「A・B・C」のように、3つ以上に分岐させたい場合、IF関数を何重にも重ねる（ネストする）と数式が複雑になります。最新のExcelでは、より直感的に書けるIFS関数がおすすです。

■従来の書き方：IF関数をネスト

```
=IF(B2>=80, "A評価", IF(B2>=60, "B評価", "C評価"))
```

→ カッコの対応が複雑で、処理の流れの把握や条件の追加・変更が難しい…

■おすすめの書き方：IFS関数

```
=IFS(条件1, 真の場合1, 条件2, 真の場合2, ...)
```

例：B2セルが80点以上なら「A」、60点以上なら「B」、それ以外は「C」

```
=IFS(B2>=80, "A評価", B2>=60, "B評価", TRUE, "C評価")
```

→ 条件と結果のペアを並べるだけなので、直感的で修正も簡単です。

最後のTRUEは「前のすべての条件が満たされなかった場合に」を意味します。

【実践テクニック】 IF関数と他の関数を組み合わせる

【実践テクニック】IF関数と他の関数を組み合わせる

IF関数は他の関数と組み合わせることで、さらに活用の幅が広がります。

組み合わせ例	内容と数式例
IFERROR + VLOOKUP	VLOOKUP関数で起こりがちな #N/A エラーを、分かりやすい表示に変えられます。 例： エラーが出たら「マスタ未登録」と表示する <code>=IFERROR(VLOOKUP(A2, E:F, 2, FALSE), "マスタ未登録")</code>
IF + COUNTIF	重複チェックや、特定の条件を満たす項目があるかないかの判定に使えます。 例： A列の顧客リストに重複があったら「重複あり」と表示する <code>=IF(COUNTIF(A:A, A2)>1, "重複あり", "")</code>
IF + ISBLANK	空白セルかどうかを判定できます。入力漏れチェックなどに便利です。 例： A2セルが空白なら「未入力」と表示する <code>=IF(ISBLANK(A2), "未入力", "入力済み")</code>

【免責】

※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。

※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。また当資料は、公開日時点の内容となっております。最新の情報、実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。